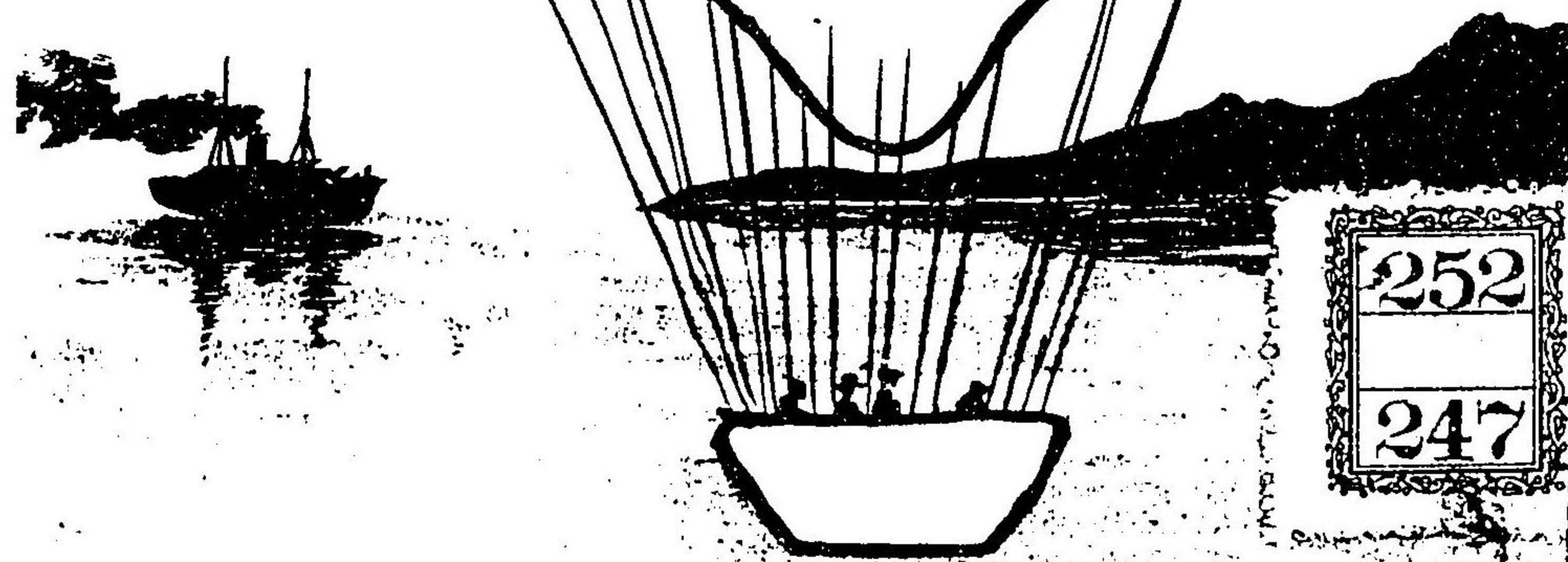


The travel and the world

世界旅行



252

247



序

既に想像の船に乗出したる世界旅行記社會

も亦た想像を以て之を迎ふるは固より論を

俟たざるべしと雖も然れども其想像や實在

の想像也

故に其旅行も亦た實在の旅行也主觀的より

せば想像となるも客觀的よりせば實在とな

らん而して各國の都邑人口の多寡物産の種

序

明治 39 4 16
内交

二
類氣候の如何に至るまで能く網羅して遺漏なく以て讀者をして其目親しく之に觸れ其身亦此に在るかを想像せしめ且つ言文一致の小説體は最も兒童をして日常展讀の間に在つて無意識の裏ら自ら地理的思想と世界的觀念とを涵養せしめんとす
顧ふに實在的世界旅行者を多く泰西人に現はれしと雖も久しく鎖國政界の下に養成せ

られし我邦人に在りては猶ほ未だ全く想像の域を脱せざるもの、如く然り然らば這般の著書は寧ろ時代の反映と謂ふも敢て不可なからんか若夫れ空を出て、實に入り想を脱して現と爲り我邦今後世界觀念の發達と共に是等實在の旅行者を出すを得ば此著豈啻に死馬の五百金而已ならんや而して著者の意も亦た蓋し茲に在らん矣

明治三十九年三月

四

品川寓居に於て

南海居士識

世界旅行

桑島嶺南編述

世界を旅行するには是非とも海路に由らなければならぬ又海路を取るのは最も捷徑である併しながら世界の航路は今日にありては左程困難なる事では無いが今より三百年以前の昔時にありては頗る困難なる業で颶風悪疫飢渴等の如き天災事變はいふ迄もなく海岸線の確實ならざる、航海圖の無き加ふるに残忍猛惡の蠻族に出會する事等其他種々の危険の多かりし事は數へ盡せぬ程であつたのである世界の航海を始めて企てたのは葡萄牙(Portugal)國の航海者でマゲ

ラン (Magellan) という人である此人は西暦一千四百七十年即ち我二千百三十年にオーポルト (Oporto) という所で生れたのである所がマデラン氏は一千五百十九年の九月二十日即ち我二千百七十九年に出帆した針路を西に取て一の海峡を発見したのである此海峡は今尙は同氏の名を以て呼ばれて居る氏は此處を通過して一千五百二十二年九月六日即ち我二千百八十二年八月に其船隊は本國に歸つた而して此の船隊は僅に五艘であつてしかも今日では遠洋航海に充てらるゝとは思ひも寄らぬ程の小船であつた此の五艘の中で最も大なるものは百三十噸位で其の小なるものは僅に六十噸の端艇であつたのである其後五十年即ち我二千二百三十二年にして英國 (England) にサーフランシスドレーキ (Sir Francis Drake) という大膽不敵なる人物があつて

又世界周航を思ひ立ち十五噸乃至百噸位の小船五艘を蟻装して一船隊とした、今日大西洋を航海する船舶は三千噸乃至四千噸以下のものは殆んど無いので其當時を思ひ回らせば只其大膽不敵に感嘆せざるを得ない。

マゼランと云びサーフランシスドレーキと云ひ何れも其航海に三年の長さ歳月を費やし又カピタイン、ゼイムス、クック、(Captain James Cook) 氏は四年の星霜を費やしたるを今は容易く船は蒸氣の力で狂瀾怒濤の中を駛せ又其船中には鬱を散じ苦悶をやるべき娛樂の設備がある彼マゼラン氏が三年の長きに引きかへ僅々三ヶ月にして世界一周の航海を果し得るとは誠に結構な事である。

されども此三ヶ月の航海には少なからぬ金銭と時間とを要するので

ある故に金は之を費やさず只夢的想像のみにて此航海をなさんと思ふサテ此航海をなすには數百年の間地球上の海陸島嶼を探險せし航海者又は漫遊者の見聞せしもの或は日記紀行の書類とを羅針盤となすのである。

海は世界のあるとあらゆる陸地を悉く環繞する廣大無邊のもので始め終はりの無いものである昔時冒険の航海者は其の乗る船に勝れたる堅牢の心を頼みとして此海に船を浮べたのである余も亦此渺茫たる大洋に想像の船を浮べて遍く諸洲を遊歴して其形勝を觀光しようと思ひ立ち先づ其決心を北極に置き其處より出船せやうと思ふのである。

茲に余の想像船は早くベーリング(Bering)の海峡を通過して西比利

亞(Siberia)の東岸に着いた此國は亞細亞(Asia)の北部にある廣大なる國で國內にはオベー(Obe)ナナ(Lena)ヒニセイ(Yenisei)と云ふ三大河が流れて居る其源は南方の暖地に發して北氷洋(Arctic Ocean)に注ぐのである夫故に上流は尙ほ水流るゝも下流と河口とは氷が張り詰めて流通を止塞するので水は溢れて數十萬里の土地に汎濫し世界無二の最大沼地をなすといふ事である、やがて此地を出立して東南の方に向はむと漕ぎ出づる吾想像船は北亞米利加(North America)の西岸でサンフランシスコ(San Francisco)といふ所に到着した。

サンフランシスコ(San Francisco)は北亞米利加合衆國カリフォルニア洲(California)の貿易港で合衆國に於ける十大都會の一である市街は桑港の西南にある地峽の北端を占めて背後には一丘岡を負ひ太平洋

と桑港の潮水とを隔離して居る。

此の都會の繁華と成りたる進歩力の甚速なるは他に比類のないことであるとは今より凡そ數十年前は實に陋隘極まるセルバブユーナ(Serbabuna)といふ一寒村であつた其頃は住民僅に五百人餘で毛皮獸脂等を賣買するのが常業であつた所が金鑛が発見せられてから東部諸洲の人民が先を争ひ踵を接して此地に移住し十數年前には既に十五萬に近き人口となつたのである、現今此都市には廣濶にして數十の眞直なる街道あり就中フロント(Front) バッテリー(Battery) サンソム(San Som) の二街には宏壯なる商館藪を連ねて並び建ちカリフォルニヤ街にはサンフランシスコの經濟界を左右する各銀行がある又キールニー(Kearney) モントゴメリー(Montgomery) ハム(Kush)

パイン(Pine)等の諸街は各商業の繁昌なる場所であるヴァンネッサ(Van Ness)の大街には富豪の人々宏壯美麗なる第宅を構へて居る。洲廳の建築物は構造甚だ美麗で此建築費は凡そ四百万弗の巨額を要したといふ事である、又合衆國新造幣支局は其建築費百五十万弗で税關商法講習所カリフォルニヤ銀行も亦宏大たる建築物である、パレス、ホテル(Palace Hotel)の如きは世界中に稀なる一大旅館で一千二百人の旅客を收容することが出来るといふ事である教會堂の多くは舊教派で二十二三ヶ所ある、其他陸海の病院孤兒院小學校遊戯場等頗る多く殆ど屈指するに違がない又市内には支那人の居住する街があつて其家屋の構造は凡て支那風である、街には阿片烟館賭博場遊戯場祠堂等がある支那商人の中には豪商があつて商權を掌握する

者は少なくないと云ふ事である。

此港はカリフォルニア全洲の咽喉で亞米利加西岸の要津である幾多の船舶は南海諸港の間に定期航海をなし又太平洋(Pacific Ocean)の航路殊に郵便船は我日本及支那の間に往復するので凡そ太平洋に面する諸國と北米合衆國との間に往來する旅客及び多くの貨物は皆此港によるのである故に此港は東西旅客の出入貨物集散の門戸で殊に日本と米國との貿易に關しては最も緊要なる港である。

此處より亞米利加の東方へは鐵道にて行くことか出来るのである、即ちニューヨーク(New York)迄は鐵路三千哩で近頃此間一回も停車せず駛走する機關車が發明せられたが未だ試運轉はせられぬ、此處にニューヨークの概畧を話さんに此市は北米合衆國ニューウーク洲に

在りて合衆國第一の都會である、其西を流る、ホドソン(Hudson)河の對岸にゼルシー(Jersey)といふ市街があつて其東を流るるイースト(East)河の向岸にはブルークリン(Brooklyn)といふ市街があつて共に新約克市の外坊である、本市街と外坊との人口を合すれば二百萬以上である。

此市の南端にはバッテリー(Battery)といふ公園がある海岸には長さ堤坊を築きて海潮の侵入を防ぎ園内の装置は甚だ美麗である、其東北にはブロードウエイ(Broadway)といふ名高き廣街がある幅十五六間ばかりで長さ三哩餘ある、官衙商館旅館等相櫛比し車馬の絡繹行人の來往肩摩擊其雜沓すること誠に織るが如くである其の東はボウエン(Bowen)街で是れも亦美麗なる、街道である其北方一哩半はか

りの所には新開の市街がある長さ八哩ありて長さ十七間餘りある街路が數條あるウォール街(Wall Street)は諸種の株式取引を業とする商店が多いロフスマベニー(Hirsch Abenjie)は頗る繁華な街でサウス街(South Street)は海濱店が殊に多い其他パール Pine パイン(Pine) シダル(Cedar)街等は雜貨を販賣する店舗が相連なつて居る。

市内の建築物は皆宏壯で頗る美麗である、中でもウォール街(Wall Street)の商業會館の如きは長さ百二十間幅二十五間で其礎石より四階迄は高さ十一二間餘もあり其屋頂までは二十間餘ある、其建築費と地價とは百八十万弗の巨額を費したといふ事である、又官立圖書館は白色の大理石で建造せられ百十七餘万弗の建築費を要し又府廳は其建築に五百万弗を費したといふ事である、市内の公園はセント

ラルパーク(Central Park)といふのが最大であるので此公園は市民の寄附金で市の中央の廣き土地を購ひ築造せられた所である、本市はホドソン、イースト兩河の河口を占めて居る凡て平地であるが爲めに此公園に假山泉石を築造するは其費用の莫大なることは推知せらるゝのである、初め此園を築造するに當りて多數の園藝家に其の圖案を出たさしめて其最も優れたるものを選びて五十名に配付し各其技倆を盡さしめて築造せしめたのである其佳勝絶景なること天然の美を凌ぎ眞に宇内無比の公園である。

ニュージャーク市は地球上に於て實に一二を争ふべき商業繁盛の土地で鐵道は全國諸洲より恰も蜘蛛の巢の如く四方八方より此處に集まり、殊に高架鐵道の汽車は市街道路の上を走り其奇構壯觀なる事は

驚くべき程である、此市とブルークリン市との間には世界第一の長橋を架設せられてある又其港は世界中屈指の良港で周圍二十五哩直徑八哩にて内外船舶の出入絶ゆる時なく一歳の輸出入高は數億弗の巨額に達するといふ事である、東は太西洋を横きりて歐羅巴に直航することが出來内地はホドソン河より運河を経て各地に貨物を回漕することが出来るので其繁華なるとはロンドン市パリ市を除けば世界中はこれに比肩する所はない。

さりながらサンフランシスコ港を抜錨し針路を南方にとり航行すれば東の方にはペルー(P Peru)智利(Chili)の諸山を望みつゝ何時にかマゼランの海峡に入たのである。

往昔此海峡の発見者マゼラン氏は東より航行して一ヶ月を費やし此

處を通過して渺茫涯りなき大洋に出で針路を西北に取りラドロン(Ladrones)島を過ぎリロリツピン(Philippine)島に至り、一千五百廿一年四月二十六日に此島の土人と争闘して死したのである、氏の太平洋を航行する間は天氣快晴で風波靜穩であつたから太平洋(Pacific Ocean)と名づけたと云ふことである。

此海峡をも無難に渡航しホークランド(Halkland)を右に見て太西洋(Atlantic Ocean)を東北へと航行し世界無雙の大河と大森林とある南亞米利加(South American)の地に到着した、此地にては北東の貿易風(North east tradewinds)は北大西洋の水氣を帯びて大陸の北濱に直角に吹き來り山又谷を越ゆる間に水分は驟雨となりて地に降り尙ほ進みてアンデス(Andes)の山腹に到り此處にて水分は悉く落下し空氣

は極めて乾燥となりアンデスの高嶺を越え、又南東の貿易風 (South-east tradewinds) は更に多くの水分を帯び來りて雨を降らすこと前と異ならぬのである。已に水分降り盡きて又アンデス嶺を越ゆるといふ事である。斯く此地は降雨の多大なることは世界第一かゝる大河も出來たのである。斯の如く雨量の多さと熱帯地方の植物は成長すること特に宜しきが故に數百萬方哩に亘る廣大なる森林も出來たのである。

更に線路を西北に取りて航行すれば船は西印度 (Westindia) の島に到着する、左りながら此邊の諸島は何時も夏の如き時候で晝間は日光赫灼として照りはたゞき夜は星影煌々として耀き、穀類は云ふ迄も無く諸種の珍果誠に多く其味の宜きは世界に比なく、諸種の香木

は常に聳り山は高くして峻く流は細くして迅く其風景の絶景なる事は實に畫にも文にも書き盡す事は出來ぬ是ぞ西方の樂土とも云ふべき所である、樂土を辭して北に進みめば亞米利加合衆國 (United States) の東北部なるボストン (Boston) 着した、ボストンは北米合衆國マッサチエセッツ (Massachusetts) 洲の都市にして合衆國第五の都會であるマッサチエセッツ港の海面に突出したる地と所々に散在せる島嶼とを合はせて此都市を形ち造つて居る、而して此の都會はボストン本部東ボストン南ボストンの三部に分てるのである。

マッサチエセッツ港は亦波士敦港ともいふのである。此港は二個の半島と許多の島嶼とに由て大洋と離隔し其面積七十方哩の大港にしてボストン市の商業に便利を與ふる事は少なからぬである、此港には

三個の海路があつて船舶の出入誠に便利である港内の水甚だ深くして最大の船舶といへども能く碇泊することが出来得るのである又其近傍の諸島に堡壘を築きて有時の警備を怠らぬのである。

此都市は普通教育完備して中小學校の旺盛なる事は米國第一に位するのであるボストン大學工業學校高等女學校等の隆盛なる事亦米國中其右に出づるものは少くない、此都市に接するケンブリッジ (Cambridge) には有名なるハーヴァード (Harvard) 大學があつて米國に於ては最舊最盛の大學である其創立は一千六百三十八年にして今を距ること殆ど二百六十餘年である此大學には圖書館理化學實驗室博物室植物園等があつて攻學の設備は完全して居るのである其學生は常に千百人内外であるといふ事である又此大學あるが爲めに米國の文學士

士は多くケンブリッジに居住して居る。

波士敦には有名なる建築物が尠からぬのであるファニユール (Faneuil) 堂は豪商ファニユール (Faneuil) 氏の寄附金に由て建築したもので米國人の最も貴重する會堂である亞米利加革命の當時其首唱者此堂に於て演説をなし人民と協議せし事がある其以後本國又は本洲の大家絶えず此堂に演説を開くことゝなつた堂内には寄附人ファニユール及ウェブスター (Webster) 氏リンコルン (Lincoln) 氏等の肖像を藏してある洲廳は初め十三萬弗を費して築造し後に又二十四萬弗を費して増築したのである其圓頂閣に登れば本市港内及外坊の諸街等一望の中に入りて甚だ絶景である。

此都市に有名なる公園がありてコンモンパーク (Common Park) と云

ふのである甚だ宏壯美麗で公園の周圍には一英里餘の牆柵を繞らし中には遊歩場花壇等を設け中央に池があり又噴水があつて常に高さ六七丈許の水柱を噴出して居る此池邊に古き榆樹がある百年以外のものゝ鐵柵を繞らして是を保護してある園内の地形は高低ありて平坦でなく北部は最も高い此に登ればチャールズ(Charles)河及其近傍は悉く之を掌中に見るが如くである公園の西に公立の植物園があつて是れ亦頗る美麗である。

又フィラデルフピア(Philadelphia)は北米合衆國のペンシルヴァニア(Pennsylvania)洲にありて合衆國第一の都市である此都市はデレウェア(Delaware)河とスキールキル(Schuylkill)河と落合へる南端を占めて地形は高低ありて平坦ではなく中央は最も高く兩河に近づくに従て

漸次低くなつて居る。

此都市の繁盛となつたのは合衆國に於て殊に古き事であるされど其著しく隆盛に趣いたのは北米合衆國が獨立し國會を設けし以來である而して人口は一千八百六十年には五十六萬二千人に近く一千八百七十年には六十七萬四千人に達したといふ事である其以後の繁盛となりしは實に驚くの外はない。

此市街はフィラデルフピア本部と外坊數個とより成つて居る本部の街道は河岸に沿ひて少しく屈曲したる所はあるが其餘は縦横に市街を貫通して直條方形の地區をなして居る街道の左右には樹木を植並べ家屋は白大理石若しくは赤煉瓦を以て築造してある。

市中に名高き建築は多い獨立會堂は英國の干涉を拒絶して獨立する

に至るとき迄は十三洲の代表者にて國黨政府を設けし所である彼高名なる亞米利加獨立の檄文は此堂に於て起草し公布したといふ事である今猶其草案と又破壊せる鐘とを秘藏してある此鐘は獨立の戰爭前英國の虐政を受け洲民悲哀に堪へずして此鐘を鳴らし遂に撞き破つた遺物であるといふ話である其他堂中に當時の俊傑ワシントン(Washington)氏以下數名の畫像がある合衆國造幣局は北米全體に通用する三種の貨幣を鑄造する所で二十萬弗を消して築造したものである其他ペンシルヴァニア大學及ジラルド(Gerrard)學松等も亦其建築甚だ宏壯である。

スキールキル河邊は内國貿易商の群集する所でデレウエア河岸は外國貿易船の碇泊する處である。

此河は大西洋より遠く百二十哩を隔つれども河身尙甚だ深くして最大の船舶容易に河岸に着することが出來得るのであるデレウエア河邊には漁船の渡船場六ヶ所ありてニューゼルシー(New Jersey)との往來を便にして居るスキールキル河には三大橋を架設してペンシルヴァニアの内地との交通を自由にしてある。

市内人民遊歩の地にはインデペンデンス(Independence)ワシントン(Washington)フランクリン(Franklin)ペン(penn)等の方形の空地がある又フェアアモントヒール(Fairmount Hill)フェアアモントパーク(Fairmount Park)といふ公園がある此公園はスキールキル河を抱きたる兩岸の岡を根本に取て天然の山水に由て營造したもので、其公園は奇樹珍草に富んで天真爛漫たる實に絶妙の勝地である費拉持費

の市民は遊苑を經營するには自然を存するを主眼とするのである故に天然の勝景を擇びて是れに人工を加へ以て遊覽の地となしたりと誇り常に紐育(New York)の公園を評して全く人爲に成つて天眞の美無しといふて居る然るに紐育(New York)の市民は亦費拉持費(Expenses)の公園を評して自然の山野林泉を以て公園となすに過ぎずと笑つて居る兩都の市民が聊か其性情を異にするは此を以て知らるゝのである其他華盛頓(Washington)西加峨(Chicago)は異日時を得て話す考へである。

此處を離れて更に北に進めは加拿陀(Canada)の地に到着する此地は英吉利の領土で北亞米利加地方の重要な部分である其地味は豊饒で穀物よく實り廣大なる森林がある又内地に踏み入れれば大なる五ツの湖水がある此湖水は世界に比類なきもので其水は皆合してセント

ローレンス(Sant Lawrence)河となつて東方の海に注ぐのである加拿陀の地に久く足を止るよりは此處の母國なる英吉利に行くべしと又想像の船を解纜して東を指して馳せた所が程無く船は英倫(England)の一港に着いた此國の緯度は我千島の邊と同様であるが氣候は遙に溫和である夫はガルフストリーム(Gulfstream)といふ熱帶地方より流れ来る潮あるが上に温暖と濕氣とを帯びたる西南の風常に吹き入るからである、であるから農工の業は盛に興り商業の道は開けて世界貿易の中心と持て囃さるゝのである首府倫敦(London)の繁華なることは世に比ふべき所も無く其帝國の領土と云へば廣く世界の内に亘りて太陽の没するを見ずと云ふも過言でないのである。

倫敦(London)は世界第一の大都會で其人口は殆ど四百萬余ありて世

に肩を比ふべき都會は無いのである又倫敦は英國の首府たるのみで無く世界の商業の首府である倫敦は世界萬國と商業貿易をなすので帆船汽船も此處より萬國に交通し鐵道電線も東西南北に連続して居るのである。

此倫敦は一大都會と云ふよりは人家稠密にして少の間隙もなく建て込みたる一大洲と云ふこそ適當であると思ふのである又倫敦の廣さは四洲に跨りて縦は十六哩横は十二哩ある其街道の長さを合算して之を一筋の道とするときは八千哩となるのであるされば此都市にて一生涯を送る人も未だ見ざる街道も少からぬといふ事である。

斯の如く大都會であるから人の生死の數も驚べき程多いのである今其大體の平均數を云へば四分時間毎に一人生れ六分時間毎に一人死

すべき割合であるから一晝夜の間を生るゝ者は三百六十人で死する者は二百四十人である是のみでも人口は日々に増加するのである加ふるに都市の人民の百分の三十七は田舎より來て住居するので此等の事情に由て二十萬人の住むべき市街を年々に建て添へて三十哩なる新街道の年毎に開くるのである實に倫敦は一大都市に非ずして都府城市村落等の集合せる一大洲である。

斯くの如く殷賑なる倫敦も昔時を尋ねれば誠に驚く程の小村落であつたが斯く漸次に繁盛に成り來つた原因は眼前に近く流るゝテムズ河にあるのである此河は貨物を積載せる小舟は晝夜に二回海潮の満干するに順ひて一錢の費用をも要せず又擢楫を取るの勞も無く自由の上り下りせられし故に斯く迄繁華なる地とはなつたのである。

倫敦の街道は無数の人民群集して朝より夜まで引きも切れず誠に「人馬絡繹如織」で其揉み合ひ押し合ふ有様は天下に比類なきことで譬ふべき物も無いのである街道は廣げれども甚た危険に見えて輒くは通行し難く駟馬に鞭を揚げて行く者四輪の馬車を駛する者又乗合の馬車其他種々の馬車など甚た夥しき事であるテムズ河に架設せる倫敦橋を初めとして其他十三個の大橋は人馬の足音絶え間なく河底なる隧道は汽車の往來甚た繁く又此河を走る汽船の数は數ふるに違ぬないのである。

倫敦は其國中の人ばかりでは無く各外國より汽船にて入り汽車にて出づる人は朝夕毎に二十餘萬の多數であるといふ事である斯く外國人の出入の頻繁なるがため茲に移住する者も亦甚た多いのである今

其重なる者をいへば亞細亞よりは支那人印度人を始めとして波斯人ペルシヤ又はアルメニア(Armenia)人來り南亞米利加の西部よりは秘露ベッサ(Persia)智利(CHILE)の兩國人來りサンフランシスコ及其他太平洋海岸の都市よりは亞米利加人來り歐羅巴大陸諸國の都會よりは日耳曼人佛蘭西人はいふ迄もなく西班牙(Spain)葡萄牙(Portugal)の兩國人露西亞波蘭匈牙利(Hungary)又は瑞西(Switzerland)那威(Norway)芬蘭等の人々來住して居る又蘇格蘭(Scotland)人の此都府に來て居住する者は其首府なるエディンブロー(Edinburgh)に居るよりも多く愛蘭(Ireland)人は其都市なるベルファスト(Belfast)府にあるよりも多く威勤士人は其都會なるカルディフ(Cardiff)府にあるよりも多く日耳曼人は其都會なるフランクフォルト(Frankfort)府にあるよりも多く猶太人と希臘人とは

其名邑なるシエルサレム(Jerusalem)府とマゼンヌ(Athens)府とにあるよりも多いといふ事である、されば倫敦の市府では總ての人種言語國體等種々様々の人間を盡く見ることが出来るのである斯く繁華の都會にても富貴の人のみには非ずして貧賤の民も亦頗る多いのである此貧民を畧は我國の名古屋市に同じき人口約十萬三千餘あるブライトン(Brighton)府に移すときは此貧民のみにて市街に溢るゝ程になるといふ事である。

倫敦には矮隘なる家屋のみ軒を並べて見る目も嫌やらしき街道は數百哩にも亘れるが壯麗なる家屋も亦少からぬのである市街の中央なる稍高き所には聖保羅(Saint Paul)と云ふ寺院がある此寺は有名なる建築家レン(Vien)氏の建てたる者で世界に比なき大伽藍である又西の方

方に當つてテームス河のはとりにはウエストミンスター(Westminster)の大寺の塔高く空中に聳え其下に英國の海陸軍事に勳功ありし人々と學術技藝に高名なる人々との多くの墓がある。

又斯の如き大都會には種々の相反する事の互に錯雜せるは世の常態なるが倫敦ほど甚たじきは無いのである其中の一二を數ふれば木造の家屋と煉瓦の家屋と軒を並べ村落と都府と入りまじり廣き街道があり公園があるかと思へば傍らには狹穢なる陋巷があるのである又宮殿もあれば茅屋もある富人も住めば貧民も居る彼方は徳行高く此方は罪障深いといふ有様で博識無學智者愚者醜惡美麗一としてあらざるは無く誠に人間社會の一大パノラマ(Panorama)を観るの思ひがする。

更に又此國より東北に針路を取りて北海に帆を揚げつゝバルチック海 (Baltic Sea) に乗り入り露西亞の帝都聖彼得堡 (Petersowr) に到着した。

此都は人間の剛毅と忍耐とを掲げたる紀念標の一ツとも云ふべきものである又此都會は氣候寒く土地瘠せたる誠に濕氣氤氳の沼地にして毎年強き霜に痛く害せられ又防ぐべきやうも無き水に苦めらるるのである而して此都市の位置は以太利の都なるネーブルス (Naples) とは全く反對の所にありて此は外部の霜と水との勢力の中において彼は内部の火の勢力の傍にある是は確なる國の中心にありて彼は歐洲の最も膏腴なる地方にある夫れ故に外部より見るも亦内部より見るも聖彼得堡とネーブルスとは相反すること最も著しのである

聖彼得堡はネヴァ (Neva) 河の兩岸に跨りて二個の小さな島嶼の上に建てられてある此都市は北緯六十度にありて倫敦より北の方十度にある其氣候は夏は酷た暑く冬は極めて寒い仲夏の長さ日には温熱愈々加はりて物陰にある寒暖計も百度以上に昇り冬季の間は零點より下五十四度に迄降り暑中の濕氣が家屋の瓦石と其縫隙とに浸潤せしもの冬季に至りて盡く凍りて膨脹するに由り市内の最も堅牢なる家屋も其れが爲めに崩壊するものは多いのである故に聖彼得堡に於ては市内の家屋は毎年盡く建て直さねばならぬと云ふ事は一種の諺の如くなつて居る佛蘭西の或る遊歴者が云ふた事がある聖彼得堡の氣候には如何なる物でも損傷せられざるは無く家屋の如き極めて舊く見ゆるものも實は昨日建てたるものである斯くの如く毎年其家屋を

改築することがなかつたならば數年ならずして此地は總て一面の沼に變ずるのであるされは露國の職工は冬季に破損せられたものを夏季に至りて之を修繕するのを常業となすといふ事である。

夏季の中で最も長き日は殆ど十九時間ありて夕方より夜の明け渡る迄に分明なる限界は無く都て晝のみであると云ふも過言でないのである殆ど夜なき有様で夜中と雖も只晝間の日光が少しく薄らぎたる迄の事である此時澄み渡れる月の光と微かなる日の光とが照り合ふ時には清白なる河水、宏壯なる宮殿、金玉を鏤めたる大伽藍が花剛石の埠頭を照して光り輝きたる景色は言辭にも紙筆にも謂ひ表はせぬ程である。

聖彼得堡の家屋の大なると廣き街道の能く整へる事は歐洲の他の首

府には多く見ぬ事である此都市の家屋の構造はモスコウ(Moscow)キーヴ(Kiev)などいふ露西亞の他の都の構造とは全く異なりて歐洲各國より種々の構造を借り來りて混交したる一種の建築法である故に始めて此地に來た者は其市街の廣大なるを觀て驚くのみならず家屋の外面に鏤めたる金銀の日光に反射し其燦爛たるを見て讚歎せぬ者はないのである市内の事物の互に相反するも亦甚たしく其家屋を視れば古代の希臘即ちビザンティン(Byzantine)の建築法と近世の建築法と疊を並べ又街上の人を視れば東洋人及韃靼人の着用する衣服と佛蘭西人並びに英吉利人の着用する今様のフロックコート(Frockcoat)と肩を連ねて往來するのである。

又市中には人口の多少に就ても痛く反對せるものがある此都市の北

部は人口甚だ少なくして長く廣き街道に只一輛の待合馬車と二三の徒歩の人と往來するのみなるが其南部には人口の最も多きこと倫敦巴黎にも劣らぬのである又市街の道路は長く廣くして其兩側に高さ家屋並列して居る殊にネブスキ、プロスベクト(Nevski Prospekt)と云へるは長さ三哩に亘り廣さ六十ヤード(Yard)に亘る街道である。若し市中の人民老若男女を併せて悉皆此市街に出でて逍遙せしむる事がありても人々の立てる間は十歩餘りつゝ隔たるといふ事である是に由て見れば市街の廣大なるに較べて人口の稀少なることが推し知らるゝのである。

聖彼得堡の人口も増殖力は倫敦や巴黎の如くには速くはあらぬが猶ほ又増加しつゝある即ち一千七百五十年の人口は僅に七萬五千に過ぎなかつたのであるが一千八百四年には二十萬となり次で一千八百五十八年には五十二萬となり現今に至つては市内の人口約七十餘萬ありといふ事である然れども其内約十萬人は總て外國人である又此市に於て毎年死する者の割合は歐洲の他の都市よりも多くして千人毎に四十四人の比例である殊に訝しき事は二十歳より二十五歳迄に死する者が甚だ多くして大概千人毎に一百人即ち十分一の割合である。

又建築中其最も廣大なるは海軍省にして其長さ殆んど半哩もある又此市には宮殿の多きこと歐洲の他の都會の及ばぬ所で露西亞皇帝の爲めに設けたるものが二十ヶ所ある其の中の八個は石造で其他の四個は木造である又冬宮と名づけて毎年七八個月の間露帝の住居せ

らるゝ宮殿は世界中最大なる厦屋の一ツで八年の星霜を経て始て竣功したといふ事である。

其後一千八百三十七年火災に罹つたが露帝ニコラス (Nicolas) は一年の内に再建せよと命じて直ちに工事に着手し命令の如くに造り終へたが此の工事の爲めに數千の賤民等は其生命を失ふたといふ事である是れ他國人の爲すに忍びざる殘酷のことで所謂露西亞流とでも云ふの外はないセントアイザック寺院は最も宏壯で且つ美麗である此寺院は稍々倫敦のセントポール (St Paul) 寺に似て居るが全く羅馬のパンセオン (Pantheon) といふ寺院の規模を眞似て建築したものである此寺院の表の方は芬蘭より出づる大理石花崗石とを用ひて建築し紅色の花崗石の一本石の柱四十八個ある又内の方は金銀黃銅大理

石瑪瑙石綠青にて裝飾してあるネヴァの河岸には極めて美麗なる花崗石を以て築き立てたる埠頭がある又此都市には一百七十七個の橋梁があつて其内の三十六個は石造で十九個は鐵橋である。

此市の常に危難に遭ふのはネヴァ河の汎濫する事であるソハ此河の上流に大なる湖水があつて春季に至ると氷が解けて水滿ち溢れてネヴァ河に落つるのである。

此時若し西風が強くと吹きつれば此河の下流なる芬蘭灣の水暴漲するに由てネヴァの河水は灣内に流れ注ぐことが出来ぬので遂に溢れて洪水となるのであるユハ五六年毎に必ずある事で最も劍呑な事であるされは市中で夜會を催し人々集會したる時に洪水の合圖を聞く時には互に挨拶もせずして倉皇解散し直ちに馬車に鞭うちて市中の小

高さ所に逃ぐるるのである其洪水の俄に出づることの屢々なるは是にて知るゝのである其中で最も甚しかつたのは一千七百七十七年と一千八百二十四年との洪水であつたといふ事であるされば聖彼得堡に於ては毎年春季に當て西風の吹くことがあれば上は皇帝より下は人民に至る迄終夜一睡もせずして起きて居ることがある又は水の増減と風の方向とを注視し顔色を蒼くし心を痛めて東奔西走すること連夜に及ぶ事があると云ふ話である。

又此帝國は北方の一帯に在りて歐羅巴全土の過半を占め其氣候は近寒特に嚴しくして他邦より侵入するは極めて難事である故に恰も猛虎の嶋を負へるが如く歐羅巴中に雄視して居たのである併しなから西曆一千九百四年の二月八日日露開戦以來連戦連敗今や露國の威信

は全く地に落ち、陸軍は北滿洲の一隅に追ひ詰められ、海軍は殆んど殲滅せられ、僅にバルチック艦隊は本國を明巢として、遠く東洋に派遣せられ、到る處國際條規を無視し、支那海に血迷ふて居る而已ならず、國內には所々に亂民蜂起し、バルチック海岸の天は密雲濛々として、電光霹靂何日何時暴風雨到るか測られぬのである、其歸途日耳曼帝國 (German Empire) に寄航した、此國亦強大の國であつて、兵力の充備することは云ふまでも無く、學術昇進して、教育國內に普及し世人をして、歐羅巴中大學校の地と稱せしむるに至つたのである。

其首府伯林 (Berlin) はスプリー (Spree) 河の邊に在るスプリー河はエルベ (Elbe) 河の支流なるハーヴェル (Havel) 河に流れ落つる小河である、此都市は砂礫多き平原にして濕潤なき土地であるから塵埃常に

多い、又此土地は平坦なること砥石の如くであるから、其水を落すこと頗る難いのである、伯林は中古の頃までは、一小村落に過ぎずして、其人民はスプレン河の島々に出で、漁業のみ營みしが、其後國王フレデリック(Frederick)大王の薨去せられし頃より市内の人口大に増加して十五萬五千となり、猶次第に増加して現今に至つては殆ど一百万となつたのである。

伯林の氣候は寒暑共に烈しいのである、夫は夏の暑さの甚たしき事は堅くして乾きたる土地より温熱を反射するが故で、冬の寒さの嚴なる事は寒冷なる東北の風北氷洋よりして市街に吹き來るが、是を遮るべき山脈のなきが故である、伯林の土地氣候は斯くの如く宜しくないのである、然るに今は大陸都市で最も美麗で最も廣大なる都

府の一となりたるは、専ら市民の出精と忍耐とに由來するのである。又伯林は歐洲の大陸を経て四方に分る、鐵道の中心に在るより近年俄に富饒となり、人口も亦増殖して目今に至りては五百個の街道四十個の小公園三十個の橋梁がある。

市中で最も廣くして且つ最も美なる街道をウンテルデンリンドン(Unterdendlinde)と云ふのである、此街道は尋常の街道を五つ並べたる程の廣さありて、菩提樹、栗樹、白楊樹、金合歡芭蕉等を四列に植え並べ、此樹木の並列せる間に四條の道路を開いてある、但此四條の道路の内二條は、馬車の通行のために、他の二條は、騎者の通行の爲にしてある、此街道の兩側には宮殿、大學校、戲場、藝術學校、外國公使館等種々の大厦高樓建ち並び、又美麗なる旅館、廣大なる店舗等ありて街

道の美景なるが上に、更に美景を添ふるものが多くある。

伯林には大學校の外に理科學校、美術學校、工業學校、建築學校、陸軍兵學校、宏壯なる文學々校、其他數多の初等學校の設けあり、又公立圖書館二十七個を設けて、何人にも入館して圖書を觀ることが出來得るのである。府内の人民は製造と、美術と、政談とに従事して、其氣力精神兩ながら活動して止むときなきに、市内には又斯の如き人民の外に沈靜にして動かざる英雄の肖像許多ありて、中にも最も美麗なるは、フレデリック大王が馬に騎れる肖像である、さて普魯士(Prussia)國は戰によりて建ち、戰爭に由て強大になりたる者にして、實に武を以て立ちたる國と云はねばならぬ、されは始て伯林に來る人は事々、物々、觀る毎に往時の戰爭と、武威とを追想せざる者はないのである。

然れども伯林には城牆堡砦の設け無く、唯尋常の石壁を繞せるのみである、そは田舎より市内に輸入する物産に課税する爲めの設備である。

伯林の中央に當りて、テールガルテン(Thiergarten)と云ふ廣大にして、雅趣多き動物園がある、市民は夏の夕には、妻子を携へて茲に來り、或は園内を逍遙し、或は園内に坐して咖啡氷などを飲みて熱さを忘るゝのである、又伯林の近傍に美麗なる植物園があつて、園内の樹木は貳萬種以上もあるのである。

伯林の大學校は、獨逸諸大學校中にて最も新しきもの、一つにして、一千八百年に創て造られた、現今は三千人以上の學生で、其中には法學を研究する者が多いと云ふ事である、又ローヤルライブラリー

(Royal Library) と云へる圖書館には、凡そ五十餘萬冊の藏書がある、伯林は鐵細工に巧であるが、又種々の美麗なる磁器をも製造するのである、伯林は殆んど歐羅巴大陸の中央を占むるに因て、今後日耳曼及其富強なる鄰國の盛大になりゆくに従ひて、益隆盛に赴くの有様である、其西鄰の強大國は佛蘭西(France)で英吉利とは、一葦海水を隔つるのみである、國富み且開けたる所にして、其首府巴里(Paris)は歐羅巴大陸の中にて、最も大なる都會で、其戸數は七十萬、人口は凡そ二百萬餘あるといふ事である。

倫敦を世界の商業の首府とせば、巴里は世界の快樂の首府となすことが出来るのである、されは地球上の各國より、多數の人間が巴里に蝟集するのは自國には斯く樂しき所がないから、大抵は皆各自の歡樂を求め休暇の日を愉快に過ぐし、又儲蓄せる金銀を面白き事に遣ふためである。

此巴里にも倫敦と反對なる事が二三あるのである、ソハ倫敦の家屋は煉瓦にて築造されてあるが、巴里の家屋は美麗なる白色の石もて建築せられてある、又倫敦の天は常に暗く陰り勝ちなるも、巴里の空は青々と晴れわたりて煤煙に汚されず、又倫敦の街道は多くは狹隘にして醜陋なるが、巴里の街道は概ね廣々として美麗である、又倫敦の住民は商業にのみ従事して朝夕に辛苦と行末の事などに用意すれど、巴里中で最も殷賑なる場所では自分の快樂のみを專一として其他の事を思はぬ人は甚だ多いのである、巴里はセーン(Seine)河の南北兩岸に分れ、北岸の地は三分の一にして、南岸の地は三分の一であ

る、此地は佛蘭西の中央では無いが、併しながら佛蘭西の諸陸道の本原である、而已ならず佛蘭西の諸谿谷の本原にして此國の大谿谷は悉く皆巴里に通へるのである、されば國中にありとある貨物は巴里に集合せぬものはないのである、倫敦は世界の大海道の中央にありて、世界の總ての商權を掌握するが如く、巴里は歐洲の大陸道の中央にありて、歐洲中にて富饒膏腴なる國は頗る多いが、此都會の如き繁昌なる所はないのである、巴里は倫敦を距ること凡そ二百五十哩、地中海を距ること五百哩、羅馬を距ること七千三百哩である、さて此都會中倫敦と君士但丁堡コンスタンティノープル(Constantinople)を除くの外は皆汽車にて巴里に通ふのみならず、歐洲大陸中にて名ある都會より巴里に通ふには皆鐵道に由るのである。

巴里は佛蘭西政府の所在地である、諸外國の使臣の駐劄する處である、國內の各銀行支店の中心で、又法學、文學、理學の始まつた所である、此都會は多く世の變遷を歴、甚しき兵亂に遭遇したことも多いが又甚たしく破壊もせられずして斯く繁榮の都市となつたのである、巴里の市街は建築極めて美麗で、其形狀も様々であるが故に、始めて此地に來る人は讚嘆せざることは無いのである、此都市には九十四個の鋒頭堡バスタチオンの突出せる石壁を繞らし、又其外面には深き外濠と幅廣き軍道とを繞らし巴里の周圍の丘岡、又は小高き所にも堅牢なる城壁を築造してある、斯くの如く城壁を以て圍繞せる事は昔よりの事であるが、其城壁、堡砦は現今の様には非ざりしを、一千八百四十年に斯くは改築したのである、巴里には數道の間市内を串通する幅廣き

大道がある、此大道の兩側には樹木を植え並べ、又美麗なる白石を以て築きたる高樓軒を並べて立つて居る、其樓の高さは七層、若くは八層にして各飾りの鐵物を打ちて種々の花卉を植え込んだ看樓を設けてある、又市内の中央を經過する大道がある、此大道には二輪四輪の馬車は常に輪と、輪と撃ち合ひ徒行の人は肩と、肩と摩り合ひて誠に賑はしくある、殊に晴日の午後には快樂を求むる男女引きも切らず往來し、又其兩側に並べる店舗の美麗にして、千態萬狀なることは歐羅巴洲中には比類がないのである、又パッサージュ (Passage) とて玻璃を以て蓋ひたる街道がある、其兩側には種々物品を販賣する美麗の店舗並び續ひて居る、此パッサージュは凡そ二百六十條あつて巴里の見もの、一つである、此數哩の間は巴里人と外國人とを問はず如何なる雨天なりとも、雨具を用意せずして玻璃の蓋ひの下を逍遙するのである、又市街の處々に方形の空地がありて、其四邊には弓形の廊下を構へ、其中央には花園を設けて樹木花卉を植え付である、又處々に大理石を以て築き固めたる噴水井あり夫より噴出す水柱は日光に映じ煌々として輝き見る人の心をして爽快ならしむ、又セーンの河岸に廣大なる埠頭があつて數哩の間連續して居る、此埠頭は巴里の商業を繁盛ならしめんとて拿破翁第一世の經營せし所で、其後セーシ河岸の商業漸次衰へて陸路の鐵道に由る事となしたるのである、今日此埠頭には四方の船舶は集ひ來ずして、古書を賣る露店のみ數多あるのである、されど此河岸は今も尙美麗なる所で散歩には好恰の地である、其河の景色も所によりては實に麗しく見ゆるのである、そ

は此河には二十六個の橋梁があつて、其橋梁は多く石造である、雅致ある構造の鐵橋も二三あるからである、又巴里には植物園、公園等もあれど、倫敦の夫れに比ぶれば稍狭くて、其數も亦少いのである。巴里には古物博物學、陸軍地理藝術理學等の博物館を設け、學識ありて何事をか考索せんと思ふ人は此等の博物館に往き、見料を納めずして縦覽する事は自由である、又巴里國立圖書館には、其貯藏せる書籍の數は英國博物館の藏書に倍して約二萬卷ある、されば此圖書館の書棚を縦に並べ續けば殆ど數十哩にも及ぶのである、又市内には寺院、宮殿あり、學校、病院あり、劇場あり、廣き市場あり、又宏壯なる兵營あり、其他の建築物は一として美麗ならざるものはなく、又巴里の萬國博覽會は、其建築の宏大なるはいふ迄もなく、廣く斯道に裨益

あるに由て、其名は世界各國に聞えて居る、凡て此街道は柵形大道の勝れたる寺院、宮殿、公廨の華美なる人民、及馬車の絡繹織るが如く何事も他に勝れたるは云ふまでもなきことであるが、殊に麗はしき事は此地に限ぎりて露なく雲なく、又煙なくして常に朗らかなる晴天である、然るに此國は一千八百七十年に當りて、日耳曼と兵を交へ見苦しき敗北を取りし後、國民奮然蹶起して奢侈淫靡の陋習を改め、勤勉儉約大に其面目を一新したのである。

斯くて又想像船はいつしか、ジブラルタル海峽 (Strait Gibraltar) に通りかゝつた例の、バルチック艦隊の一部も此處を通過したのである、此の海峽は地中海 (Mediterranean Sea) の門口にて、右方にはジブラルタルの岩石峙ち、左方にはシユータ (Ceuta) 山高く聳ゆるのである、昔

時は是を合稱してヘルキユールス(Hercules)の柱と云ふ、そは當時希臘の(Greek)英雄ヘルキユールス(Hercules)と云ふ人此所まで航行し、其紀念の爲にとて岩石の二本の柱を立てたるに起因すといふ事である、是より地中海の北を浦づたひに伊太利(Italy)の勝地を探り希臘の舊趾を訪ひ、次で奧地利(Austria)の都までも行きて見んと思ひしも、船を寄すべき所あらねば残り惜くも、歐羅巴の地を離れて、亞非利加(Africa)の方へと乗り出でたのである、船中或人の歐洲觀光日記を讀んだので、今其の羅馬府、及維也納の大略を掲げて未遊地の摸様を述べんに。

古代の羅馬は當時世に知られたる全世界の首府であつた、其府の建設は紀元前七百五十四年なりといひ傳ふるのである、此都府は初は一の小さな邑なりしが、年を逐ひて廣大に成り、終には世界中にて最も盛なる都府となつたのである、されば當時は名ある國々を攻め取らんが爲めに軍隊を出たし、歐羅巴、亞細亞、亞弗利加の三大陸を鎮めんが爲めに總督を遣した事がある、古代の羅馬は、最初はタイバル(Tiber)河の東岸に建ちて海を距ること十六哩の處に在りしが、此都府はヴェスパシアン(Vespasian)帝の世に至つて頗る隆盛を極め、人口は殆ど貳百萬ありて、今の巴黎の人口に同じであつたが其人口の三分一は奴隸であつた、古代の羅馬には美麗なる祠堂、巨大なる宮殿、其他種々の紀念物甚だ多い、又此都府の周圍には植物園、公園があつて園中鬱蒼として、樹木繁茂し宏壯なる家屋、美麗なる銅像、此處彼處に散在して居た、當時此都府には宮殿一萬七千、噴水井一萬二千、皇帝及

將軍の銅像四千、馬上の銅像二十七、浴場一萬、劇場三千あつたといふ事である。

古代の羅馬に於ける最大の建築はコリシナム (Coliseum) である、コリシナムは楕圓形に作り、其周圍は一哩の三分一、其高さは一百五十七呎である、此建物は眞劍で試合する戯、又は野獸と人間と闘ふ戯を演せんが爲めに設けたるもので、其面積は五エーカーある、觀客の席は演戯場より上の方に在つて、丁度登るが如く一層は一層より高くして、凡そ八萬人の觀客を容れ得るのである、コリシナムに於て始めて演戯ありし時場内にて殺された獸は五千頭であつた、又アドリアン (adrian or Hadrian) 帝が其誕生の日を祝して演戯を開きし時、野獸の闘ふて死んだのは一千頭あつたといふ事である、但此内には牡獅子

各一百頭あつた、斯くの如く此演戯は其後久しく繼續したが、紀元四百三年に至て東洋の道士テレマキウス (Telemachus) といふ人偶、羅馬に來り、此演戯を觀て殘忍なる有様を痛嘆し、直に場中に飛び下り觀客に向つて此演戯を止めむことを請求した所が、觀客却て怒を發し互に石を投じて終にテレマキウスを撲ち殺したのである、然れどもテレマキウスの死後には斯る惡戯は其跡を絶ちて衆民に觀せし事はなかつたのである、吾輩は今日コリシナムの遺趾を見るさへ身の毛もよたち胸も打騒くのである、若し其當時に生れて八萬の觀客が演戯場の勝負にのみ目を注ぎ、今人の夢にも見ざる慘劇を眼前に見ることがあらば如何なる心地がするであらうか、當時羅馬人は甚たしく血を流すが如き事を樂みとなしたので道義を守りて改めざる者、又

は國法に背ける者を此演戯場の内に投じて、野獸の餌となした事は往々あつたといふ事である。

コリシアムは斯く淺間敷き演戯場であつたが、今日は反て哀悼の情を催すの地となりて、其建築は年々崩壊し墻壁や、アーチ(Arch)には千樹百草花咲き稚木回廊を掩ひ演戯場の中央には、十字架を建て、彼觀客の座下には、野鳥の巢が多いのである、されば此處に訪ひ來る人は何れも往古の有様を追想して暗涙を催はさぬものはないと云ふ事である、中頃の世に至りて羅馬は國境も狭くなり、人口も減少して英國の五等位の都市と均しく成つたのである、殊に第十四世紀の頃、羅馬法皇の羅馬を去つて、佛蘭西の南部なるアヴィニオン(Avignon)に留まりし後は、羅馬の人口僅に一萬七千ばかりになつた、又今日の羅

馬は、往昔君主政治の羅馬に比ぶれば、一都府と云ふよりも寧ろ、其紀念物といふは眞實である、何となれば、羅馬にては往古の遺趾は今代の建築物より多く、往古に於ける人々の事蹟は今日生ける人々の事情より多いからである、今代の羅馬は、其周圍に十二哩の城壁を繞らし、十六個の城門がありて、城内は甚だ廣いが、人民の居住する處は僅に、其三分の一に過ぎぬのである、其他は開市場、葡萄園、及公衆の遊歩場で、其外は大概荒蕪地である、又街道もコルソと名づくる處は道幅も廣く直ぐにして、其長さ一哩に亘れども、其他は概ね皆狹隘にして屈曲し石をも敷かざれば塵埃多く滿つるのである、又朽ちかゝりたる茅舎廢屋は極めて美麗なる宮殿堂宇と建ち並ぶ、一種異様の光景は轉た懷舊の情に堪へられぬのである、然れども羅馬の都府は自

ら世界に類なき趣きがある、それは教院、宮殿、僧院、圖書館、遊歩場、噴水井、銅像、其他多くの公廨、官舎到る處にある、其形狀構造は一々異にして同じきものはないので、常に觀るも倦厭の念は露ほども起らぬたろふと思はれるのである、羅馬には三百有餘の寺院がありて、其中には華美を盡し巧緻を極めたるものは多い、又八十餘の宮殿がある、又羅馬の貴族の住居せる宏壯なる邸宅此處彼處に散在するのである、又市街の噴水井がありて、清朗暖和の空氣中に銀色の水柱吹き出で往來の人は、是を見て心を悦ばさぬものは無いのである、さて羅馬の建築の最も大なるはヴァティカン (Vatican) 及聖彼得 (St. Peter) 寺である、ヴァティカンは世界第一の大廈である、是は羅馬法王の冬季に駐駕せらるゝ宮殿であつて、一萬二千個の房室と、八個の大階樓とがあ

る、殿内には又二十個の内庭と、許多の花園があつて、樹木、花奔を植ゑ、噴水井を設置してある、又殿内には世界技藝上の製作物を古今と言はずして廣く集め、又世界各国の言語を以て書きたる書籍十萬冊、寫本二萬五千冊を藏めてあるといふ事である。

聖彼得寺は世界第一の大寺であると世に噂せられてある、此寺の圓頂閣は詩畫の二道に秀でたりしミケルアンケーロポーナロッチ (Michall Angelo Buonaroti) が七十二歳の時に畫いたものである、此寺を建築するには百六十七年の星霜を経て、一千萬磅の經費を要したといふ事である、其内部の裝飾の美麗なる事は、世界の他の寺院の右に出づるのである、巨大なる圓頂閣の前面には遊歩場、噴水井等を設けて美觀を添へられてある、地上にある羅馬の外に、更に地下にある

羅馬がある、地下の羅馬は、宗教上の事に因て殺されたる初代の耶蘇教徒の塚にして、其數五十個あり、此塚に埋葬せられたる者は數千人ならむかと思はれる、又此塚は故らに築きたるものでは無く、往古羅馬府を建築した時、其材料の石を地中より切り出たれたる後に、其の切り残りし石の墜道が此塚を成したのである、目下巴黎の南部の地下にも此種の塚があるのである、古代の羅馬は水には不自由がなかつた、それは美麗なる暗渠九條を設けて、近傍の丘岡から水晶の如き清水を通じてあつたのである、されども唯三條の暗渠をのみ用ふるのである、而して又古代の羅馬人は道路を築造する事に最も巧であつた、其道路の尤も堅固なる者はアピアシ道路で四角なる石片を敷きて造りたる者で今日も尙存在してある、一千八百五十九年以太利新

王國の建ちし時フロレンス(Florence)は其國都となつた、フロレンスは以太利の一大都府にしてアルノ(Arno)河邊に建て居る海岸を距ること五十哩にして、美麗なる丘岡で繞らされて居る府内のホーリックロック(Holy Cross)寺は、有名なる寺院で恰も英國にウエストミンスター(Westminster)寺があるが如くである、此寺院には以太利の大家ダンテー(Dante)ミケルマンゼーロ(Michael Angelo)ガリレオ(Galileo)等の遺骨を収めてある、此フロレンスは一千八百七十年に至りて國都を廢止せられ、今は羅馬の國都となつてあるヴェニス(Venice)も亦た以太利の一大都である、此都は海中に建ちて世界中にも最も奇異なる都府の一ツである、其運河は街道の用を爲し其河船は馬車の用をなす、又市内は常に物靜にして騒ぐくないのである、ヴェニスは往古

強大なる共和國の首府であつたのである、其共和國はアドリアテイク (Adriatic) 海上に威權を振ひシイプラス (Cypus) モーレア (Moria) の地まで其領有としたのである、此國の大統領をドージ (Doge) と稱へた、ドージとは公爵の義にして毎年一回盛大なる儀式を行ひて、アドリアテイク海と婚姻を結ぶを例とした、第一のドージは紀元八百九年に始て叙爵せられた、其後ドージの爵に叙せられた者は七十九名ありて、最後のドージの廢せられたのは一千七百九十七年であつた。

羅馬は往古世に知られたる世界の中心であつたのである、又武勇に因て立ちたる最も強大なる國で、當時名のある國々は何れも貢物を羅馬に納めないものはなかつたのである、ソハ當時兵器と武藝とを

以て權力威勢の源泉と認め、又地中海を以て地球の中央なる無二の大海と認めたのである、然るに今は貿易商業は權威勢力の源泉となりて、大西洋は萬國往來の大道となつたのである、されば權威勢力の潮流は羅馬及地中海岸の方向に流れずして、英倫と大西洋との彼方なる合衆國に向て流るのである、又維也納 (Vienna) は王國大公園、公園等の聯結して成れる奧地利帝國の首府である、近頃奧地利を奧地利匈牙利國と云ふのは、近年匈牙利人が奧地利政府に迫りて、其國の獨立を認めしめたと、奧地利の帝たる者必ず匈牙利の首府なるペス (Pestec) に行きて、其國風に從ひ匈牙利の王位に即かざるを得ざるに因るのである、維也納は舊府と、新府とに分れ、舊府は市内の中央あるに由て又是を内邑とも云ふのである、其街道は狹隘にして屈曲

すれども巧に石を敷き並べ、其屋宇も亦頗る高くある新市街は府内の外部にあるが故に、又外坊とも云ひて三十六個に分れ、其家屋は皆近年建築せるものである。又舊市街と、新市街との間に空地ありて、環状をなして舊市街を圍繞して居る、其の空地は廣き所もあり、狭き所もありて一様でない、又此空地には新、舊兩市街の通路を開き、遊歩場を設け、種々の樹木を植えられてある、此の空地は往昔城堡の胸壁のありし所であるが、一千八百五十年胸壁を取り崩して空地となしたのである、維也納の街道は外坊に至りて、廣くしてそふして眞に日光も遮られずして照りわたるのである、又市内の諸街道は總て中央の一點にある、セントステイブレン (St. Stephen) と云ふ、宏壯なる寺院を指して集れること丁度、巨大なる車輛の幅が盡く其敷に集り、又は巨

大なる蛛網の絲が悉々其中心に集れるに似て居る、歐洲の他の都市にして斯くの如き街道のあるは、唯バーデン (Baden) 大公園の首府なるカールスルーへ (Karlsruhe) の都市のみで、其外には未だ見ざる所である。

維也納の繁盛に赴く有様は、敦倫、巴黎、其他の都市とは異なるのである、倫敦、巴黎の二都に於ては百年以來人口は、市の中央より西の方へのみ増殖し、縉紳、富豪は年を遂ひて西の方に移らんとする有様である、何れ故であるかといふに、歐羅巴に於ては平均三日の中二日は、西風の吹くが爲め西の方には、殊に新鮮なる空氣を得らるゝと、又歐洲大都市中に於て最も景色の好さは西の方にあるとに因るのである、然るに維也納に於ては、其舊市街は中央にあつて、其中央は最も風

雅なる土地とし、商業及快樂の淵藪地である、而已ならず皇帝及皇族の宮殿、舊華族の邸宅並に官衙も亦盡く此處にあるのである、維也納には美麗なる家屋は多くある、其最も著きものはセントステイブンの寺院で、此寺院は日耳曼ゴシック(Gothic)風の建築物の模範とも云ふべきもので十字形に建築し、其尖塔の高さは四百五十六尺ある、彼英國にてはサリスベリー(Salisbury)寺の尖塔を最高の塔なるが、此尖塔に比ぶれば尙は高さ事と六十尺餘りである、又プラーテル(Prater)といふ公園は、ダニューブ河の分支に因て成れる諸島に跨りて最も美麗である、維也納の地は上古は總て森林であつたが、此公園は其一部分の殘存せるものであるから、今も尙鬱蒼たる老樹等があつて、灌木叢々納涼の亭を掩ひて高く雲際に聳えて居る、此の公園の邊は頗る

幽邃であるから、此地を逍遙する人は大都會の中央に在ることを忘れて、人家より數百哩も隔離せる土地に在るやうに思ふのである、維也納の家屋は凡て華麗にして爽快である、殊に近年新築の家屋は佛蘭西の構造に倣ひ出窓を設け、蛇腹と柱とには種々の裝飾を施し、又壁の凹める處には肖像を据えなどして、崇高優美を旨とするものは多いのである、但維也納は宏壯美麗なる都市なれども、人身の健康の爲めには宜しくないのである、ソハ如何にといふに、毎年死する者倫敦に於ては一千人毎に二十二人の比例なれども、維也納に於ては夫よりは二倍にも過ぎて、一千人毎に四十九人の比例である、市内には維也納大學校ありて頗る美麗である、此の大學は一千二百六十五年の創立で、現今は三千人以上の學生、百三十三人の教授がある、此地

造つたものであるといふ事である、其一は墳墓の爲で、二つには紀念の爲で、三つには財寶を貯藏する爲である。

アレキサンドリア港を抜錨する折には、針路を西の方に振り換へ、亞弗利加洲 (Africa) の海岸に沿ひ南に向つて船を遣り、セントヘレナ (St. Helena) に立ち寄つて昔時の英雄の舊跡を弔ひせむかとも思ひ、又行きつゝ數百年前バスコガマ (Vasco Gama) と云ひし人が、始めて通過したといふ所の喜望峰 (Cape of good Hope) を繞り、印度洋 (Indian Ocean) をも渡りて、大洋洲 (Oceania) に出づべきが、バルチック艦隊の一部も、此喜望峰より印度洋に通航したのである、さもあらざれば古史の名高きシリヤ (Syria) の岸に船を寄せて、陸より行きてゼルサレム (Jerusalem) を訪ひ、レバノン (Lebanon) 山脈を攀ち登り、ヨルダン河

の注ぐ死海にも行きて見るべく、又巴比倫 (Babylon) ニネヴェ (Nineveh) の偉業の古蹟をも尋ね、ユーフレーテース (Euphrates) 河の流に沿ふて下り、波斯灣 (Bay of persia) に出るが、されど夫は殊更船の便は悪しからむが何れに定めたらば宜しからむと思ひ廻らす、其中に風徐ろに吹き來つて波穩かに船は平に走りて、亞細亞、亞弗利加兩洲の境に峙てる山脈を人工にて切り通じたるスエズ運河 (Suez canal) に船は入つたのである、斯く其處をも亦通過して紅海 (Red Sea) 亞丁灣 (Bay of Aden) も昨日、今日と思ふ程に早くも渡つた、先にジブラル海峽よりせしバルチック艦隊の一部も此所を通航したのである。

亞刺非亞海 (Arabian Sea) と名には立てども、想像の船は幸にも風ぎよく油を流せるが如き海面をいと平かに進みてコモリン (Comorin)

岬を廻航する程に錫蘭(Ceylon)島を右方に望めり、此錫蘭島は今より凡そ二千四百餘年前に彼の釋迦が、佛教を修められた土地であるといふ事である、程無くポーク(Palk)の海峽をも通過したのでカルコッタ(Calcutta)に急航したのである、カルコッタはガンジース(Ganges)河の川口にありて中々繁華な港である、此ガンジース河は世界に屈指の大河で、其近傍の土地は有名なる阿片(Opium)の産地である、此阿片は花白き罌粟(Poppy)の實の莢の上肌を傷け、流れ出づる汁を採りて乾かしたるものである、此罌粟を培養する田は、或は長さ二百四五十哩、廣さ八十哩餘に亘りて頗る廣大なるものがある、又此植物は十二月の末よりして、二月の初に至る迄白き花咲き盛りて、滿地積雪を見るの思ひがするのである、已にして實を結へば彼の阿片を製造す

るのである、年々其産出高大凡六萬四五千匁に至り、代價は殆んど二千萬弗餘りに及ぶといふ事である、斯く多額の毒劑なれども、其十中九までは支那人の需用に供して烟と成ると聞く、支那研究の問題に於て實に忽かせにすべからざる事と思ふ、是より吾が想像の船は、其航路を東南に取りつゝ、濠斯太刺利亞(Australia)の大陸にて最も繁昌なる、シドニー(Sydney)府に着港した、此府は昔時英國より罪人を流した地で、其後良民の移住する事と成りてより以來罪人の謫流を止めた、此所より大陸の海岸に沿ふて東北を繞り見れば、珊瑚の礁ありて、其長さ一千哩餘に亘て居るのである、此の珊瑚の礁は丁度太平洋から打ち寄する怒濤を防ぎ、恰も此大陸の爲めに柵壁と成れるが如くである、其他尙此の近傍一面の海中には、縁礁環礁など云へる珊瑚

島の種類最も多いといふ事である。行き行きてトールスの海峡(Sr. Torres)を渡り、東印度諸島の間を右に、左に様々に廻航しつゝ眺むれば、熱帯地方の事とて草木は能く繁茂し、鬱蒼として居るのである。其内地の高山には思ひもよらぬ白雪を載せて、其景色の佳なること得も言はれぬ有様で、又此島の中には火山殊に多くして、地震も屢々あるといふ事である。且つ夏月の間には實に恐るべき颶風があつて、航海出来されば新嘉坡(Singapore)港に寄らず、又時節柄バルチック艦隊の臨檢を避けつゝ目下日佛間の交渉一大問題たる、安南(Anam)近海のカムラン灣、ナトナラン灣、及ホンコへ灣、柴棍、海南等を左方に眺めつゝ、何時しか東洋の名高き香港(Hongkong)に到着した。此港は支那廣東の河口にある小島である。

支那清朝の所屬であつたが、今より殆んど六十年の昔阿片の戦争以來英國の領有となつたのである。其後英國は此地に兵營を置き、數多の軍艦を繋ぎ警備甚だ嚴重である。支那は亞細亞洲中の一大帝國で、其の建國の遼遠なることは世に多く、其比を見ぬのである。又堯舜の世は今を距ること四千餘年前の事で、其頃已に文物開け發明も亦甚だ多かつたのである。然るに此國一般の陋習として、内を尊び、外を卑み自ら中國なり中華なりと誇稱して、其他の國をば悉く之を夷狄となすのである。而かも前の元朝といひ、今の清朝と云ひ皆所謂夷狄の地方より蹶起して、中國中華を侵襲したが、其是を押領せし後は、亦舊來の風習を襲ぎ自ら尊大にして、他國を侮蔑し屢々信義を外國に失ひ、汚辱を蒙ること多く、殊に西歷一千八百九十四五年に於ける日清

戦役に大敗せしより、近年大に猛省し年々多くの學生を日本に留學せしめて、國運を振興せむと勉めつゝあるのである。此國は天然に水利に富み黄河、楊子江の如きは、亞細亞中の大河であつて國中を貫流して東海に注ぐ、又此の二大河を横に貫きて、南北二百六十餘里に亘れる運河がある、ユハ隋朝に穿つたものであるといふ事である、又此國に於て、天下の一大奇觀とも謂ふべきものは萬里の長城である、此長城は秦の始皇帝が北方強敵の侵入を防ぐの目的で築造したるもので、其長さ東西五百十數里に達するのである、峻嶺を越え深谷を巨り河流を斷ち、其高さ二丈五尺、厚さ一丈五尺の堅固なる障壁である。此國首府北京は又順天府とも云ふのである、其地は直隸省に屬して大興苑平の兩縣に跨つて居る、人口は凡そ二百五十餘萬あつて、其戸

數の多きことは英國の倫敦に次ぐといふ事である、明朝の初代に此地を北平府と稱へたが、後に帝都を此土に移して順天府と改め北京と稱へたのである、今の清朝が滿洲より起つて明朝を滅し支那全土を横領するに至つて、更に復た此地を帝京と定めたのである。

北京城は二大區劃に分れて居る、北方を内城と稱へ、南方を外城と云ふのである、ともに城壁と濠とを以て圍み處々に樓門を設けてある、其城壁の高さは三丈餘りにして、厚さは二丈ばかりある、又其周圍は方正であつて凡そ八九里程ある、内城は又分れて三區と成つて居る、其中央を大内或は紫禁城といふので、即ち清帝の皇居である、大内の外を皇城といふて城壁を以て環繞されてある、此内部には清帝の大廟社、稷壇先蠶壇がある、又其の南の隅には南華園があつて、奇花珍草

を栽培して四季花の絶ゆる時はない、景山は樹木鬱蒼として珍花も亦多くある、西苑には太液といふ池があつて、最も幽邃なる勝地である、包城は皇居を抱きて外城に接續する一區劃である、其周圍の障壁には九つの門がある、此中には諸官衙寺院等が甚た多いのである、其建築は壯大宏麗で、其他は大概居民の第宅である、大街道は八條ありて各城門に通達して居る、其廣さは凡そ四丈餘りであつて、中央の凸所を通路とし、其左右を便道として居る、通路は車馬の往來する所、便道は人々の徒歩する所である、又其大街には店舗が櫛の齒の如くに比びて種々の物品を販賣して居る、猶又路傍に幕を張り棚を設けて、日用の雜貨店を開いて居る者も多いのである、其熱鬧にして殷賑なることは外國で見ることの出來ぬ程である、市街の左右には各小

巷數十條ありて、是に住居する者は甚た多い、滿洲、蒙古、支那の軍人も亦多く是に居を構へて居る、外城は内城の南面を包圍する外廓で、其周圍の障壁には七つの門が設けられてある、外城の南には天壇先農壇がある、天子歲時に此に臨幸せられ祭祀を行はせらるゝのが例である、其北は四民群居百貨集散の地で大街四條ある、小巷は數へ切れぬ程多くあるが、街巷は内城と比較すれば稍々狹隘である、けれども市場の雜沓商賣の繁昌することは内城よりは盛んである、正陽大街は正陽門に對する廣き街で、其東西には街巷が碁の如くに布かれ、店舗は鱗の如くに並び立ちて、陶器、織物、裝飾品等が陳列されてある、就中西河沿といふ所には毎店に洙王人參香料を賣つて居る、又琉璃廠といへる所は大抵皆書肆と、骨董舖とのみで新古の書籍法帖書畫

の類より、筆墨、用紙、文房具、銅器、磁器等に至るまであつて、殆んどなきものは無い。

北京の地は平野の間にあつて、四方の街外は茫漠たる野で、たゞ西方三里餘に一帶の山脈を見るのみである、氣候は不順で、寒暑の度は甚た著しい、夏期は寒暖計概ね九十度を昇進し、甚たしき時には百度に上ることがある、處が冬期に入ると寒氣酷烈にして、溝渠河水盡く結氷し、寒暖計は零度に降ることが多いのである、其地質は輕鬆で少しも砂礫を交へない、ソレ故に風の吹く時は實に紅塵萬丈の有様であるが、雨降れば泥濘道路を埋めて車馬不通の状態となる、即ち風をければ三尺の土、雨ふれば一街の泥といふ諺の通りである、道路は極めて不潔で、街巷の隅には塵芥、汚物、堆積せられてある、且地下に溝を

設けて河に通じ、汚水の疏通に備ふるが、近來之を浚渫せざるが爲めに、溝渠は壞敗し、壅塞して溝渠の用を爲さず、汚物水は溜滞し、蒸發して臭氣鼻を撲ち、嘔吐を催さしむるのである。

香港島を拔錨して其針路を東北に取り、朝鮮(Corea)の仁川(Chemulpo)に着港した、此國は亞細亞の東岸にある一大半島にして、我對島を距ること海上僅に十一里餘である、それ故に最も夙くより我國と交通し、文學及百工の技術を傳へた事は少なからぬのである、又我國よりは豊臣氏の討伐の如き皆世人の熟知する所である、又此國は古代より自主獨立の觀念に乏しき國で、何れの代にも隣邦の強國より窺竊せられた、又此國の獨立するとせざるとは、是れまた我邦の自衛上に

最大關係があるので、西曆一千八百八十六年に清國と干戈を交へて、其獨立を扶け、其後露國は支那滿洲の地を畧し、朝鮮を併呑せむと企たので日露の開戦となり、連戦連勝の結果今や日韓條約により、我邦の保護國となつたのである。

仁川港より直航して門司に寄港し、夫れより久振りにて、瀬戸内海の勝景を眺望しつゝ、遠洲灘を通れば、芙蓉の玉峰目前にあり、其小嶺の上の屹立したるは、丁度我が大和魂の人類社會に冠たるが如くである、種々の冥想に驅られつゝ、何時しか横濱の埠頭に着いた、直ちに汽車に塔じて東京に歸り來たのである、時に恰も九段靖國神社の臨時大祭及春季例祭で、殊に本年は今回の日露戦役に際して、名譽の戦死を遂げたる勇武絶倫の、陸海軍將卒三萬餘人の雄魂を合祀せられ、畏

しも車駕親臨あらせらるゝと洩れ聞きて九段坂の上に出れば、肩摩轂擊人の堵を築き、其殷賑なる譬ふるものなく、漸く其間を通り抜け拜殿の前に進んだ、今や嚴がなる式行われ思はず頭を垂れた、男子生れて君國の大事に斃れ、死して靖國の英靈となる臣民の本分、全く人間の能事茲に盡きたのである、其合祀の榮を享けた者は自ら瞑すべきで、又其遺族にありても自ら慰さまれるであらふと思ふた、參拜して神宇の裏にぬけ、車を雇ひて靈巖島に行き、東京灣内の汽船に身を搭じ、横臥一睡すると早や豆南の下田港に着船した、夫より上陸し吉田松陰先生の、當年の壯志を追想し、柿崎辨才天の祠濱を徜徉して、低回去るに忍びなかつた、日暮先生の隱棲されたといふ、蓮臺寺温泉に行き某旅館に投じた、翌未明再び下田港に戻り、小艇を雇ふて大島

に着くと、孤松菴に歸つた、斯の如く、沍寒酷暑の境を涉り、豊饒礪礪の地を踏み、貴賤貧富の人民に接し、愉快なる事にも逢ひ、困難なる事にも堪へ忍ひて、世界の旅行を終へたのである、今や過ぎにこ方を回顧せば、怒濤岸を嚙むで、酷及酷孤峰黒烟を吐ひて濛又濛。

明治三十九年四月十二日印刷
 明治三十九年四月十五日發行

不許複製

定價金貳拾錢

編輯兼
 發行人

桑島政五郎

印刷人

松澤 狂三

東京市麹町區下六番町十七番地

印刷所

同 勞 舍

東京市麹町區下六番町十七番地

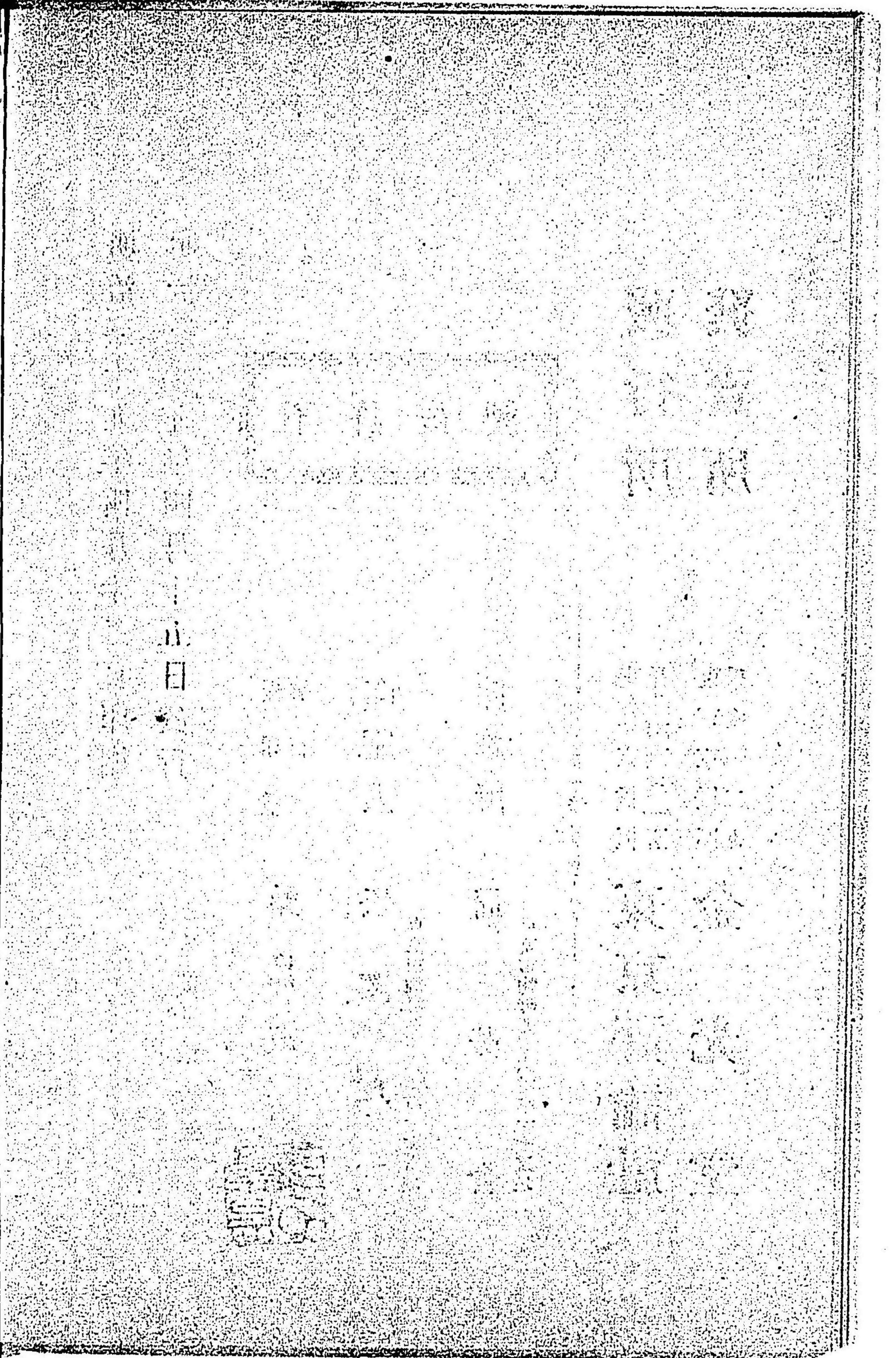
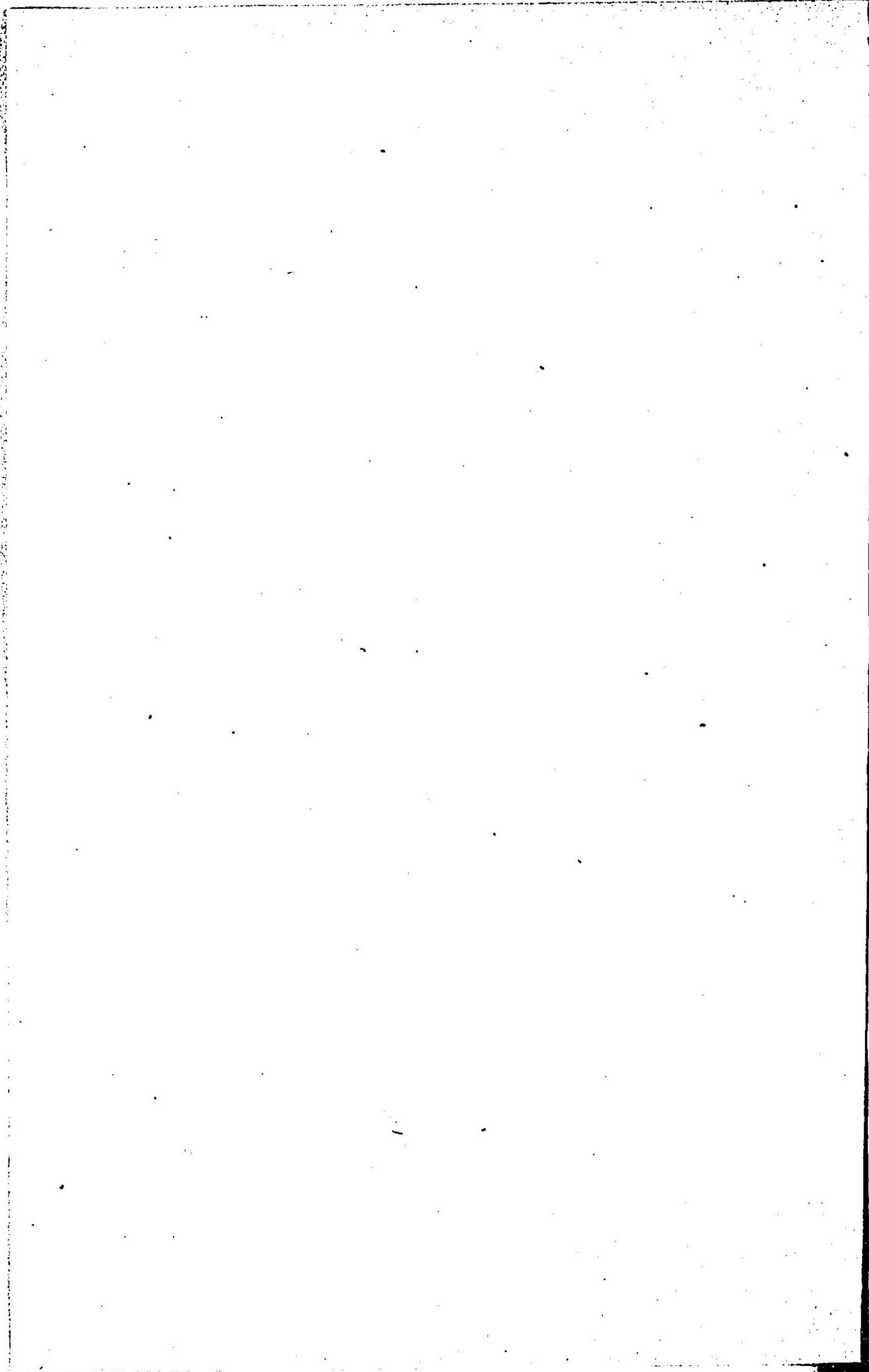
發行所
 發賣所

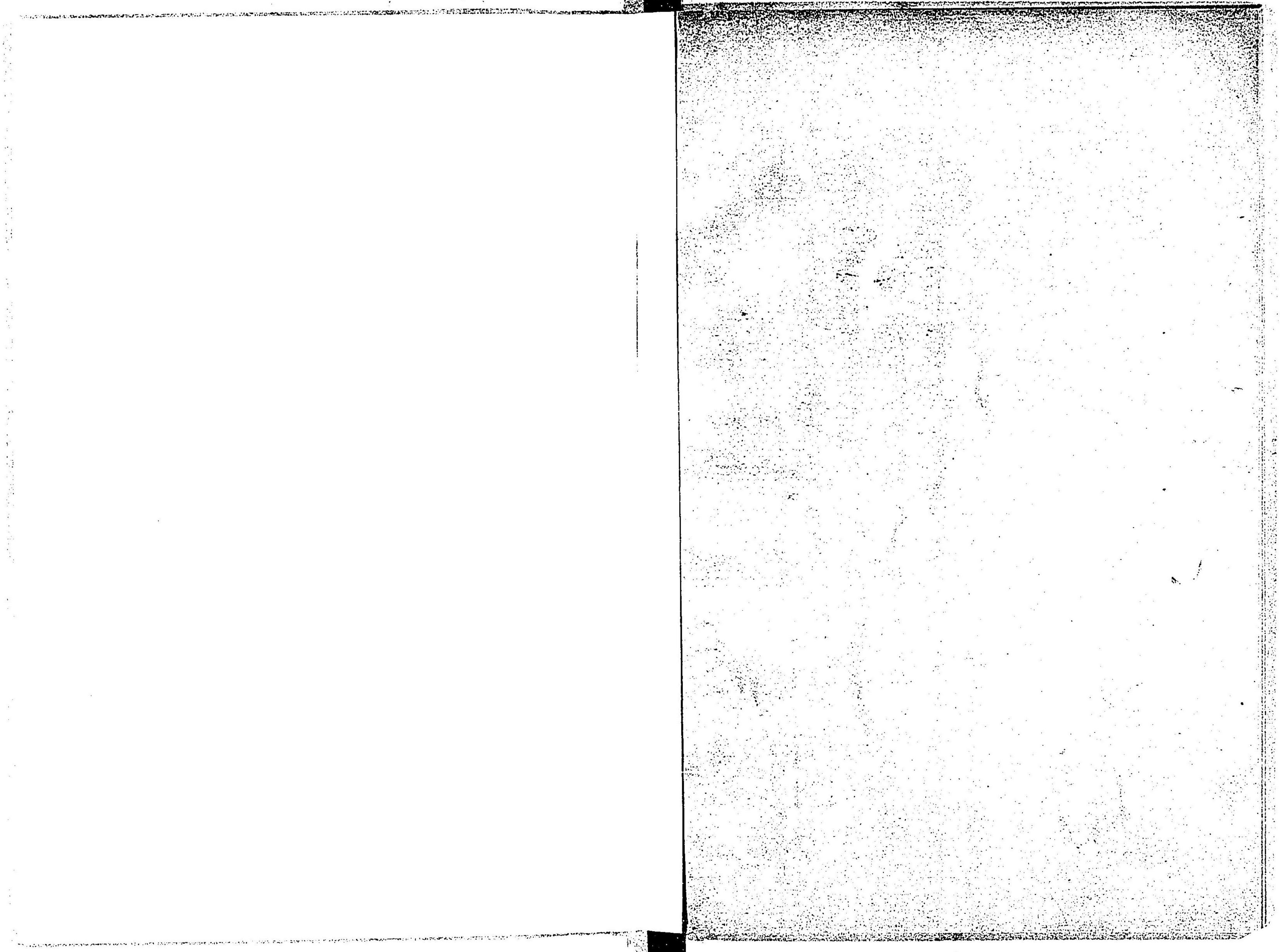
東京京橋區
 尾張町新地二五

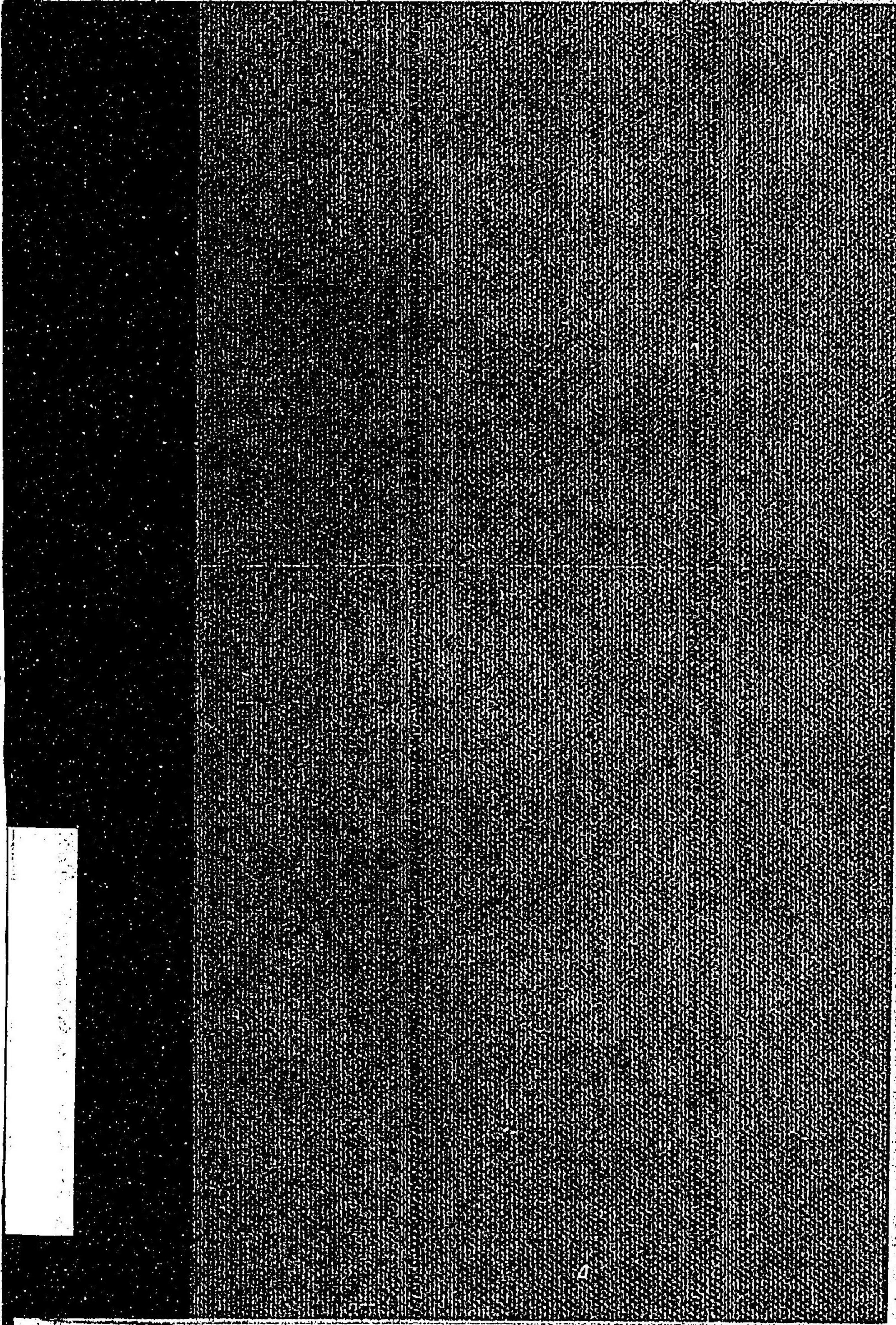
東京評論社

東京京橋區
 采女町二九

金光堂







Small, illegible text or markings on a white rectangular strip, possibly a label or a page number, located on the left edge of the dark area.

特20

490

世界旅行

国立国会図書館

022081-000-6

特20-490

世界旅行

桑島 嶺南(政五郎) / 著

M39

ADA-0432

